

じゃっど

1999年6月1日



写真1 校庭の端にある売店で休み時間に軽食を食べる小学生
(サイセタ郡ドンヌアン小学校)

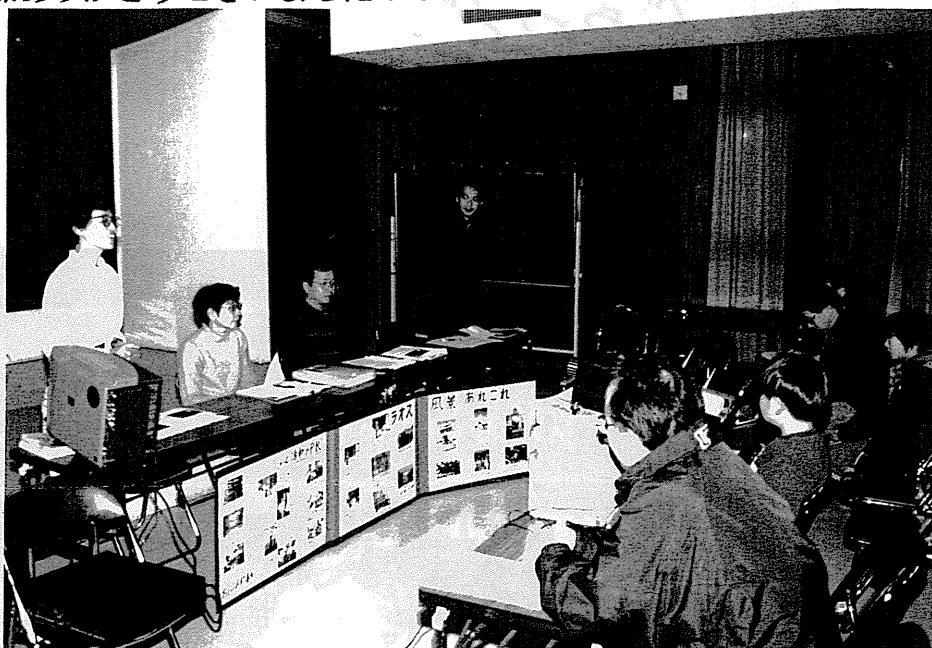
夏も近づきましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。ラオスでは4月12日13日14日が新年のお祝いでした。新年をラオス語でピーマイと言います。別名水かけ祭りと呼ばれているように、水を掛け合います。去年の厄をはらう意味があると聞いたことがあります。何か式典では、うなじから肩のあたりに少し水を垂らす程度ですが、子供たちの前を歩くとバケツで水をかけられます。大人もトラックの上から水をかける事もあります。ピーマイの間は濡れてもいいような服装で歩くか、家にこもっているか、あるいは「私に水をかけるんじゃない！」と厳しく周囲をにらみながら歩くことになります。

私はルアンパバーンというラオスの古都でピーマイを迎えたことがあります。古い寺院の並ぶ通りをお坊さんを先頭にミス・ルアンパバーン、楽隊などのパレードがありました。パレードを待ち受ける人々が道路の両脇に並びます。女性達が銀のボウルに入れた花びらを浮かべた水をお坊さんの足元にそおとまいていました。そして、楽しい音楽につられ皆に習ってパレードの後をついていく私には、子供たちがホースで水道水をバシッとかけてくれました。おまけに隣にやってきた高校生の女の子達が白い粉までかけてくるので、全身大変なことになりました。とても楽しいラオスの正月でした。(帖佐理子)

2月12日にじゃっどツアー報告会をひらきました。
ご参加ありがとうございました！！

40名の参加があり、意味深い会合ができました。
南日本新聞('99.2.20.)の記事にも掲載されました。
報告者の宇田川様、岩月様、
仮屋様、お疲れさまでした。
3人の方の報告は前回のじゃっど新聞をごらんください。

特別参加でコロンビア地震緊急援助から帰国翌日に来てくださった野澤美香さん、ありがとうございました。野澤さんには帖佐の調査にも同行していただきました。その感想は3ページから載せてあります。



また、昨年7月に阿部貴美子さん、阿部雅昭さんと一緒にラオスに行かれた高木史江さんのレポートがありますのでごらんください。阿部貴美子さん、阿部雅昭さんのレポートはじゃっど新聞8月22日号にあります。

ラオスに行ってくださった方がこれまでで35名になりました。お一人は2回参加してくださいました。また、お二人は初めての海外旅行でした。多くの方にラオスを訪問していただきたいと思います。本年度は11月中旬の10日間を予定しています。

第8回 じゃっど 視察ツアー 第1案

11月19日(金) 鹿児島空港発 香港経由 バンコク着、あるいは福岡空港発バンコク着

11月20日(土) バンコク発 ウドンタニ(タイの東北部)着 陸路でラオスへ
メコン川を渡りラオスのビエンチャンへ

11月21日(日) ビエンチャン

11月22日(月) ビエンチャン

11月23日(火) ビエンチャン

11月24日(水) ビエンチャン

11月25日(木) ビエンチャンからバンコクへ

11月26日(金) バンコクから福岡あるいは鹿児島へ 希望者はバンコク観光

11月27日(土) バンコクあるいはアユタヤ、スコタイ観光

11月28日(日) バンコクから福岡空港へ

11月29日(月) バンコクから鹿児島空港へ

旅費：鹿児島ーヴィエンチャン往復：11万～15万円

滞在費 タイ；ホテル 1泊 8,000円から12,000円

ラオス；ゲストハウス1泊 2,000円から3,000円(冷房、冷蔵庫、
シャワー、衛星テレビ付きで快適です。)

食費 50円ぐらいから6,000円以上的高级レストランまで何でもありおいしい

これは第1案です。皆さまのご要望に応じて変更いたします。ビエンチャンとその近郊をたくさんとか、村の家を訪問するとか。安全と衛生を考慮しながらなるべくご要望に沿いたいと思っております。ご連絡ください。

ラオス ジャット活動視察 感想

昨年 7 月と今年 3 月、ラオスに帖佐理子会長と同行されたお二人の報告文をお読みください。(一部抜粋)

◇ジャット活動視察に参加して～1998 年 7 月 高木史江さんの報告

<事の始まり>

5 月に東京で、たまたま帖佐理子先生と同じ勉強会に参加していて、上司から帖佐先生を紹介していただいたのが不思議な縁の始まりだった。数分お話ししただけで初対面にもかかわらず、「今度夏にラオスに行く予定なので、いっしょに行きませんか」と誘っていただき、私のほうがすっかり面食らってしまった。

<動機・目的>

私はつい最近まで日本国内の地域医療や僻地医療の仕事をしていたのだが、この 4 月に国際保健に転向したばかりだったので、少ない夏休みを上手に利用して一つでも多く途上国を経験したいと考えていた。その点ラオスは私にとってはじめての国だったし、あまり日本に知られていない国のほうが、先入観なくありのままを観察し考える訓練になるだろうと思った。また、自分が将来日本にいながら国際保健に関わっていくとしたらどのような方法があるのだろうと考えていたこともあり、JADDO のような「小さな」NGO の活動を是非見てみたいと思った。

<ラオスにて>

#ラオスという国

首都ヴィエンチャンにしか滞在しなかったのだが、その印象は「首都」というより「のどかな地方都市」であった。高いビルのような建物もほとんどなく、パリの凱旋門に似た独立記念塔の上から首都ヴィエンチャンを一望すると、緑豊かな森の合間をぬって道路が走り寺院が建っているのである。街中を走る車やオートバイも以前より増えたそうだが、私が行ったことがある他の途上国に比べればまだまだのどかなものである。

#JADDO の活動

JADDO の活動対象学校は地図で見ると首都ヴィエンチャンに集まっている。ところが首都ヴィエンチャンといえども、車で 1 時間弱、主要道路から脇に入ると、道は悪いし一面草木や耕地で人家がほとんど見えないような地域になる。今回は、ナラート村、ドンカルム村、ホンケ村、ノンサワン村を訪問し、ある村では校長先生に会ったり、村の生活を見せてもらうこともできたが、学校は夏休みだったので建物や施設の状況を見るだけであった。しかし井戸一つとっても、安全で衛生的な井戸をつくるためにいろいろな工夫がされていることがわかった。トイレや井戸には鍵がかけられていたが、学校の施設なので管理上夏休みに鍵をかけることそれ自身は問題ではない。しかし中には井戸の配水パイプが壊れているものがあつたので維持管理の状況に今一つ不安を感じた。

JADDO が校舎補修、トイレ建設、井戸堀などの活動をしているのは、あくまで保健衛生教育に必要なものだからである。大切なのは、“教育”の部分なのだが、これがそう簡単ではない。以前は日本から専門家の人がラオスに来て、教師への健康教育指導法のワークショップをしたこともあったが、いまではソムチット医師、コンサップ医師夫婦が中心になって活動している。しかし、現在のラオスの初等教育の教職についている人は、自分自身がこどもの時十分な教育を受けられなかった人が多く、また教職だけでは生活できない社会状況なので、学校の休み時間に校庭で商売をはじめめる人もいるくらいで、ましてや衛生教育に初めから熱心なはずはない。とにかくまずワークショップに参加してもらうために参加者に日当を出すのだが、そうすると直接教える人ではなくて校長先生など上の人がかかるので、こどもの教育にまでなかなか効果が現われないそうである。いろいろ課題は

あるが、全体としては少しずつ確実に進んでいるように思われた。

現在 JADDO の実質的な活動は現地スタッフによって行なわれており、帖佐先生も彼らに絶対の信頼をよせている。JADDO の日本での活動は、活動資金の調達、活動状況の報告、日本人がラオスを理解するためのいろいろな企画である。私はこれは NGO 活動としてはかなり成熟した段階だと思う。日本の側も活動の経験を重ねて関わり方が変わっていくであろう。例えば、初めは支援する学校に日本から直接ノートや鉛筆などの物資供与をすることが多くあったと思うが、今のように現地スタッフが活動の主体になった場合、それはかえって活動の負担や妨げになるかもしれない。なぜなら、ラオスの JADDO の事務所はソムチット医師、コンサップ医師夫婦の自宅の一角で、物資を置くには十分な広さはないし、物資の量をみてどの学校にどのように渡すのかを考えるのも大変な労力を要するものだからである。現在のヴィエンチャンでの活動に必要なものは大体ヴィエンチャンで調達でき、日本から現物で送らなければならないものは極僅かである。これからの日本の支援として、現地スタッフが仕事をしやすくするためにはどうすればよいかを考えることが大切ではないかと思った。

JADDO の地道な活動が認められて、資金面で支援してくれる外国の NGO も現われた。それは大変よいことなのだが、活動が拡大するとその分責任も大きくなる。お金の管理や活動報告などのいわゆる”雑用”が多くなると、ソムチット医師たちの負担が大きくなりすぎないか心配である。ソムチット医師、コンサップ医師は自分の仕事の休日を利用して自分自身は無報酬で自らあちこちワークショップに出かけているのだが、このような彼らの活動に協力的なラオスの医師は必ずしも多くなく、副業としてお金を稼いでいると誤解している人もいるようだ。聞いて私はがっかりしてしまった。活動は拡大しても、現地スタッフが増えているわけではないらしい。ソムチット医師も、コンサップ医師も自分の活動をひけらかす人ではないし、積極的に人を巻き込んで事業を拡大していくタイプでもない。しかし、よい活動をすれば周囲から活動の拡大を望まれるというジレンマは徐々ににおおきくなっていくのではないか。

はじめは小さな縁でひとつの学校から始まった JADDO の活動は、これからもゆつくりと広がっていくであろうし、この活動を通してラオスの人も日本人も多くのことを学ぶであろう。私もこのツアーをきっかけに JADDO の会員になったが、これからもラオスを通していろいろなことを考えていきたい、学んでいきたいと思っている。(高木史江)

◇ラオスにおいて保健指導をする人への基礎学力調査に同行して

～1999 年 3 月野澤美香さんの報告

3 月 19 日から(実際には 3 月 23 日から)帖佐先生に同行し、ラオスにおいて保健指導をする人の基礎教育レベルを知るための調査を行うお手伝いをしたのでここに報告し、思いつくまま感想などを述べていくこととする。

ラオスでは村にヘルスポストと呼ばれる診療所と保健所の機能を併せ持った建物がある。ヘルスポストには 1～3 人のナースやボランティアが勤務している。ほとんどほったて小屋に近いヘルスポストの中、医療器具などはほとんどなくベッドが 2、3 あればまだいい方で、この中でいったいこの人達は何をしているのか不明、やはり危惧していたとおりアンケートに記入することすらできない。ラオスにおける健康教育ということで帖佐先生のご意向は、「ラオスにおいて予防接種へ参加した人々の情報源はテレビ、ラジオ、新聞等のマスメディアではなく村長など徒歩圏の日常生活で接触のある人物であったということ。家庭における健康教育のアプローチとして学校の教諭が効果的である。しかし、きょうしであっても保健衛生の基礎知識がほとんどない。7 割の教師の最終学歴は小学校であり、教授法を知らない、などの理由により教師へ衛生教育のみを行っても子供たちへそして家庭へとは広がらない。衛生教育とどうじに教授方法の教育が必要である。いずれにしろ、

基礎学力が高く衛生健康情報の多い日本においてはほぼ常識と捉えられるような事も他国においては常識でないこと。グラフや表などの表示は基礎学力なしには理解が困難である事などを認識するなど理解力と教育についてまた、教育受講者の基礎的な知識について情報を十分に得た後、健康教育の内容組み立てを行うことが必要であると考え。」ということで、今回の調査をお手伝いすることとなったが、本当に正しい知識を持っているのか、又、正しい知識を持っていてもそれが正確に伝えられているかは明らかでなく、私は病院内で勤務していたので村のヘルスポストをまわるのは初めてだったが、広大にひろがる田園の中にぽつんと建っているヘルスポストはやはり村人の健康の維持、増進に関与するためのよりどころになっていることを考えると、この人達に何をどの様に教育を行えば効果的なのか。病院内で勤務していた頃からの課題が又、私の目の前に広がってくる気がした。

調査のあいまに、じゃっどが机、いすを寄贈した学校にも赴き、現在建設中であるトイレやすでに生徒や教師がしようしているトイレやオフィスを視察した。机やしうには寄付者の名前がラオ語とローマ字で書かれており、寄付者の善意や心が伝わる援助だと感じ、これからも続けていくことは、顔の见えないものが多い現在の日本の援助の中で一段と輝くものになるだろう。トイレもレンガが土台のとても使いやすいものに出来上がっていたが、手洗いに関しては水の問題が残っているようで、水道を引くのにはかなりの労力がいるようである。手洗いは守っている子もあり守らない子もいたが、まだ学校内でも裸足で歩く子の多いことに改めて驚く。習慣なのであろうが将来改善せねばならない課題の一つだろう。学校自体は、ソムチット Dr.いわく“きれいな学校にするにはちよくちよく見に行くことね。”の言葉どおり、生徒が一生懸命掃除し清潔な学校もあり余りそうでない学校もあり、けれど生徒たちの笑顔がとても生き生きとしていて、シャイではあるが礼儀正しく、以前にも感じたことであるが今の日本の子供にはない素朴さ、純粋さを見、心が洗われる気がした。この子供達の笑顔を見たくて、私はラオスへ出かけていくのかもしれない。

ところで、私は1997年7月から1年1ヶ月、ヴィエンチャンの国立友好病院で総看護部長をカウンターパートに、ヘッドナースとして管理業務を行っていた。文かも習慣も言語も看護概念も異なる異国でナースを育てていく難しさを身をもって体験した。私は帰国し、日本はつくづく無駄の多い国だと思った。あふれる物、物。飽食の子供たち。おしげも無くまだ使えるものを買い替える人達。それに日本人はあまりにも発展途上国の現状について無関心であり知らなすぎるのである。その現状を伝えていくのも一つの国際協力だと考える。私は帰国後発展途上国の人達と、日本で何不自由なく暮らしている自分達との間にあるこの不公平は何かということを考えてみた時、“たまたま”生まれた国が悪かっただけである。私は“たまたま”豊かな環境の国「日本」に生まれた者として、発展途上国のひとたちのために何かしなければならなかった。豊かな側にいる人間の意識が変わらない限りこの世の不公平はなくなる。これからも、私のできることを少しずつ、けれど着実に。そんなわけで、1月下旬に発生したコロンビアのアルメニア地震災害救援に国際緊急援助隊の看護婦隊員として派遣され、被災者の医療救援を行ってきた。(私の専門は災害医療、災害看護である。) 1年以上生活したラオスにはやはり愛着があり家族同様のつきあいをしているラオス人の友人もあり、なんらかの形でラオスに関わっていきたいとかんがえていたところ、たまたま JADDO の存在を知り、私のできることを何かお手伝いさせて頂きたいと申し出たわけである。これからも協力は惜しまないつもりである。最後に国際協力、これは相手を思いやる心だと思う。草の根の人々の問題が苦悩を共に負いながら、皆が健康を確保し健康な生活が送れる様彼等と共に働き、生きていくことが私のライフワークであり、自分に課した役割と信じている。今回は、人々への健康教育の普及にはまず指導者の教育レベルを知ることから、ということで帖佐先生に同行し調査のお手伝いをさせていただいたが、あらためて帖佐先生のタフさを知り?!、また、ソムジット、コンサップ先生夫妻の素晴らしさにふれ、このスケジュールをひねりだすのに3月上

旬はかなりハードな勤務をこなさねばならなかったが、行って良かったとしみじみ感じている。しかし、JADDO の会員の皆さん。帖佐先生は本当にタフですよ！これからツアーなどでラオスに行くこともあるでしょう。JADDO の会員は体力の増強に努めましょう。以上、ありがとうございました。(野澤美香)

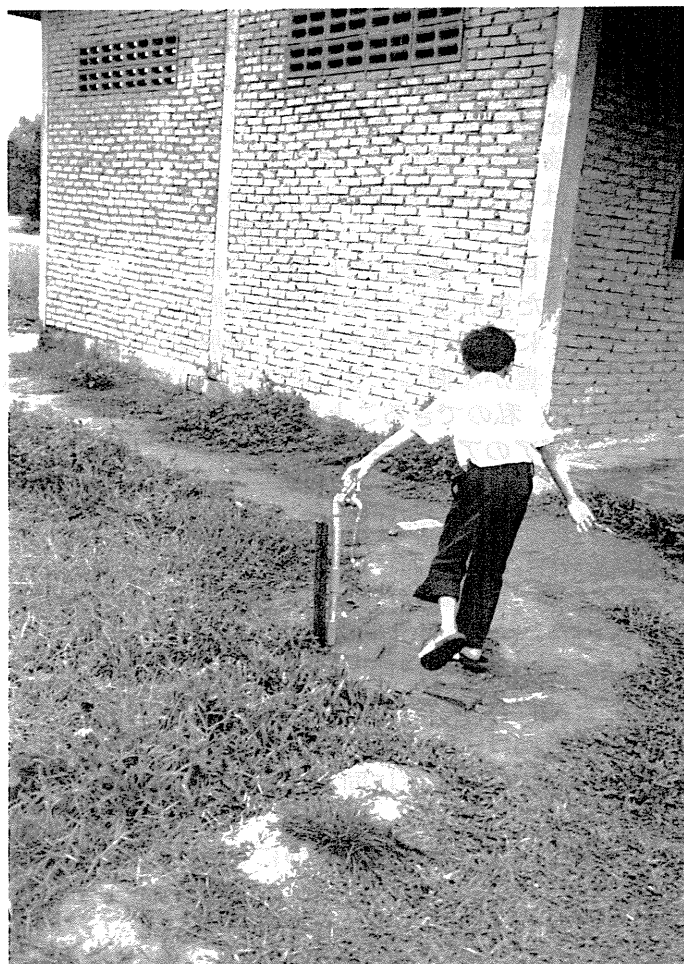
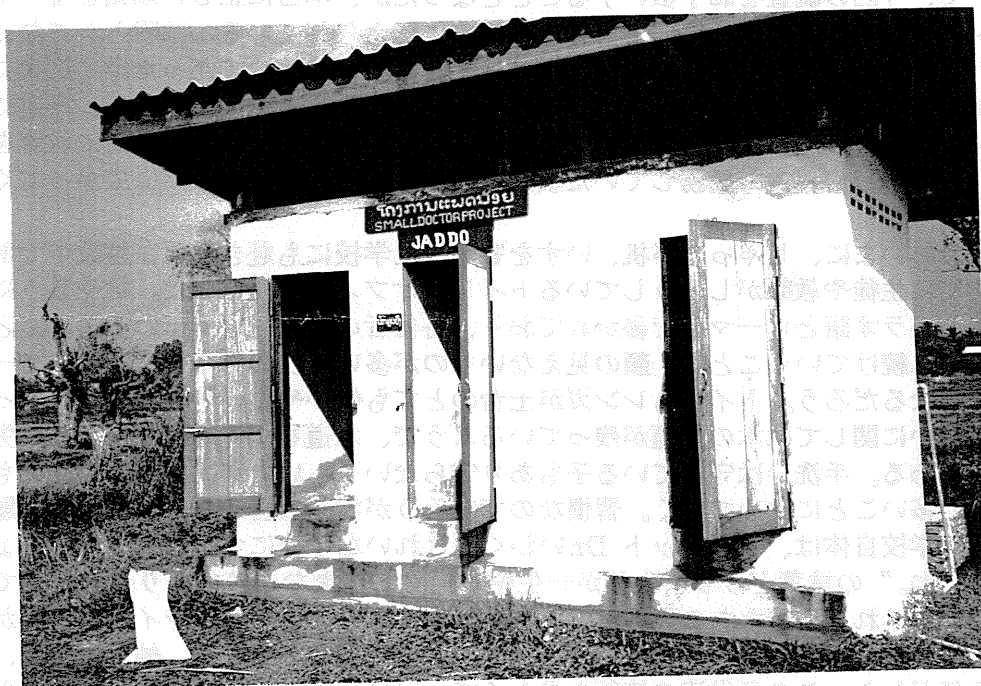


写真2(上) できあがったトイレ

写真3(左) 市の水道をひきました。

校舎の壁は仕上げのセメント塗りがまだ終わっていません。

ヴィエンチャン市サイセタ郡ドンヌアン小学校

これまでの学校では、できあがったばかりのトイレにはカギがかけられ、先生からカギを借りて使うようになっていることが多いでした。ここドンヌアン小学校では始業から終業までカギはかけません。子どもたちが良く利用していました。写真はちょうどお掃除の後で、ドアを開けてあります。

水道もできて、トイレの後の手洗いをしていました。足元は煉瓦のかけらを置いただけです。周囲にセメントをはれないかとソムチット医師が校長先生と話しました。

次回訪問時にトイレの清掃状況、水道の周囲、学校校舎の壁を確かめましょう。

◆ 事務局からのお知らせ

じゃっど会員更新の時期になりました。平成10年度の会費納入状況は60%弱です。平成11年度（平成11年7月1日～平成12年6月30日）も、宜しくご支援いただきますようお願いいたします。なお、年会費は一人2,000円です。

・納入方法についてお知らせいたします。①～③の中からお選びください。①②用紙を同封してあります。

①会費自動引き落とし（郵便貯金口座）

7月中に郵便局で手続きをお願いします。

8月30日に自動引き落としとなります。

②郵便振替 口座番号02050-2-4746 口座名称 JADDO

③現金払い（若松記念病院となり寿泉堂内“じゃっど”事務局）

☆新規会員（‘99.1月～‘99.4月）の皆様をご紹介します。

“じゃっど”会員数は240名（‘99.4月30日現在）です。（敬称略させていただきます。）

森卓朗、桑原道男、吉松茂、矢野信之、田上正洋、児玉充敏、南武嗣、白井恭子、小幡順子、中村律子、茂木隆、橋口喜久

☆ご寄付（敬称略させていただきます。）

財団法人広島県相互扶助会、坂上恵子、園田宏、小林義郎、江口紀子、中野育子、高木史江、帖佐理子、森田由夫

☆ご寄付（机・いす募金 ‘98.9月28日以降）（敬称略させていただきます。）

宮崎銀行川内支店、永山茂男、赤木俊一、佐藤章子、上野昌子、庵地紘一、児玉充敏、有吉和利、貞方洋子、大月時子、中原祐二、橋本晴美、中川武、梅木多津子、指宿高等女学校第17回生一同、望月佳子、横林宙世、茂木純子、店網国二、古川孝子、仮屋洋子、田畑エミ子、橋本英子、小西美智子、中塚有子、山井千晶、春日亜由美、酒井美奈子、小林美奈子、原野鷹智子、中井澄江、神藤芳美、黒岩千恵、野沢美加、飯塚葉子、鈴木恵子、堀内恵子、若松記念病院、松山容子、黒岩丈二、熊田亘、熊田聡子、ししのこキャンプ、藤田啓子、枇杷繁、坂上恵子、野崎宏幸、黒田節子、佐々木宏憲、佐々木千嘉、佐々木香奈、

☆会費納入（‘98.9月28日以降）の皆様です。（敬称略させていただきます。）

坂上恵子、小屋一美、山下純子、松下フユ、店網国二、米山晃代、鈴木一夫、中村武、園田義明、野口奈佳恵、野澤美香、高木史江、宮脇美智子、鷺山健一郎（平成10年度をもって退会）、西陸夫、

☆平成10年度から14年度（5年間）の会費納入の皆様（敬称略させていただきます。）

帖佐宗親、福永兼蔵、松本貞治、和地平十郎、鈴木忠夫、野口奈佳恵、

☆平成10年度から平成19年度（10年間）の会費納入（敬称略させていただきます。）
納 光弘

☆平成10年度から自動引き落としの皆様（敬称略させていただきます。）
岩崎岩男、横林宙世、渡辺裕子、小池二郎、望月明子

☆平成11年度から自動引き落としの皆様（敬称略させていただきます。）
宇津木和夫、小倉邦子、青山一正、斎藤洋史、鈴木琴子、小林義郎、鎌田到、

☆お詫び・・・前回掲載されていない方で会費納入の皆様です。（敬称略させていただきます。）

中野育子、安部良宣、国田宏

平成11年2月20日
南日本新聞

目 本 新

ラオスでの援助 生かされています

川内 じゃつどが報告会

川内市のNGO（非政府組織）じゃつど（アジアの子供たちを援助する会）が十二日、同市民会館で、秋にラオスの小学校など視察した内容や感想を報告する会を開いた。同会員やラオスや国際ボランティアに興味を持つ市民ら約四十人が参加した。

報告したのは帖佐理子代表ら四人。ビデオやスライドを使いながら、じゃつどが井戸、トイレ造り、机、イス、教材提供、衛生



教育、健康診断などで援助している小学校の様子を自分たちで作るようになったことなどを紹介した。

参加者からは、ラオスでの学校援助の資金やさらに詳しい援助活動の様子について質問があった。最後に、看護婦としてラオスで援助活動をしたことのある会員が、看護や医療現場について説明した。

ラオスでの活動を紹介するじゃつどのメンバー

じゃつど総会を開催いたします。

日時：平成11年7月24日（土）
午後2時30分～4時

場所：川内市民会館 第5会議室
（2階つきあたり）

ラオスの布、タイの小物などを
展示販売いたします。

どうぞおいでください。

じゃつど事務局：

電話 0996-20-1402 FAX0996-23-6681

e-mail mcsenda@po.synapse.ne.jp

〒895-0052

鹿児島県川内市神田町 11-20

若松記念病院内

会長 帖佐理子 事務担当 宮脇美智子